

松下幸之助に学ぶ!!

『希望と』

幸せづくりのために』

第二回

文・全国PHP友の会

会友 梶浦 洋一

(徳島PHP友の会顧問)

(H/PHPA&&

『葉根譚の会』世話人)

7月17、18両日に共同通信社が実施した全国緊急電話世論調査によると、安倍内閣の支持率が急落した。安保関連法案採決に対しては73・3%が否定。多くの憲法学者や歴代の法制局長

官OB3人の「憲法違反」断定。国民の理解不十分。『関連する十本の法案』十把一絡げの大雑把な審議。衆議院自民・公明両党等の野党欠席中の強行採決。法案は参議院へ送られた。また自

民党議員らによる「マスクミ活動への牽制発言」。自民党の劣化が著しい。また、新国立競技場建設問題の『集団的無責任体制』の迷走。世界に向けて恥ずかしい話である。



これからの日本の将来に大きな影響を及ぼす問題だけに、政府・

与野党に対し、『気配りの行き届く平和な世の中づくりを希求する立場』で注視していきたい。

さて、人使いで定評のあった松下幸之助は、『人の心の動き』をつかむのが得意で、勘働きもさることながら、独特の切り口から掌握

を進めた。

人間の心の動きをつかむ

「人間の心というものは非常に変化性がある。今は愉快に笑っているかと思うと、また次の瞬間に悲観するようなことが起こってくればそうなる。それほど変化性がありますからね。これがつけ目といいますが、お互いが考えなければならんことやと思います。」

そういう変化性があるから、努力すれば努力するだけの甲斐があるわけです。職場を愉快にし、そしてみんなが喜んで働くというようにもっていくには、やはりそういう工夫をすれば、人間は必ずそうなるようにできている。だからそういうふうにならざる甲斐がある、ということになるのです。そういう人間の心の動きの自在性というものを、経営者といいますが、皆さんのように指導的な立場に立つ人は、よほどつかまねばいかんと思います」

(昭和36年8月7日)

①『人情の機微を』

わきまえる』

「考えてみれば、人の心というものはまことに不思議なものです。『人情の機微』という言葉がありますが、ほんの些細なことで、うれしくなったり、悲しくなったり、あるいは怒りを感じたり、また、大きくふくらんだり、しぼんでしまったり、微妙に動くのが人の心です。ですから、共同生活の中で気持ちよく生活していくためには、お互いのことをよく知って、他人の気持ちを考えながら振る舞うということがきわめて大切なのではないでしょうか。」

以前、このような話を聞いたことがあります。それは、明治政府ができて、はじめて所得税というものが設けられたときのことです。当時、大阪ミナミの宗右衛門町に富田屋という一流のお茶屋さんがありました。その富田屋にある日、大阪の名高い町人というか、いわゆるお金持ちの人たちが、大阪の税務署から招待されたというのです。

お金持ちたちは、招待と

いうものの、今よりもはるかに強い権力をもっていたお役所からの招きです。いったい何ごとかと不安な気持ちを抱きつつ、かしこまって座敷に座っていました。

そこへ出てきたのが、税務署長とおぼしき人物。ところがその人は正面の床の間を背にした席ではなく、いわゆる末席にピタリと座って、「本日わざわざお越し

いただいたのはほかでもありません。このたび皆さんの収入に応じて所得税というものを新たに納めていただくことになりました。ついてはよろしく……」と挨拶し、一席ふるまったというのです。

それだけの話なのですが、これを聞いた時、そこにある種の味わいを感じました。というのは、いわゆる官尊民卑の風潮が強かった当時のことですから、新しい税制をつくるにも、通達を出すなりお役所へ呼びつけて命令しても、それはそれで通るわけです。ところがそういうことはせずに、税務署長自らが丁重に礼を尽く

して趣旨説明し、協力を求めた。そこに、何かしら人情の機微に触れた心配りといったものを感じられて、心温まる気分になったのです。

私は、こうした人情の機微にふれる態度や配慮というものが、お互いの日々の生活においても、やはりきわめて大切ではないかと思っています。

人間は、たとえば人から何か頼まれるというような場合、いわば『利害によって動く』という面と、『利害だけでは動かない』という二つの面をもっていると思います。話をもちかけた

人の態度にどこか横柄なところがあつたり、高飛車なところが感じられたりすると、それが自分にとってどんなに得になる話であつても断ってしまうことがあります。反対に、たとえ自分にとって負担がかかり、損になることでも、頼む人の態度が非常に丁寧で誠意あふれるものであつたら、ついついその誠意にほだされて、引き受けてしまうこと

もある。お互い人間には、そうした理屈では割り切れないような微妙な心の働きがあるのではないかと思うのです。

ですから、人にものを一つ頼むにしても、そうした二つの心の働きのアヤというものを、よくわきまえて行動することが大切で、そのような人情の機微にふれた行き方をお互いに実践することによって、よりスムーズな人間関係も築かれていくのではないかと思うのです。(『人生心得帖』)

②『大きな失敗は叱らない』
「非常に大きな失敗をしますわな。そうすると僕は怒らなかつたね。どつちかというと慰めてやったですよ。そう心配するな。失敗はある時はある。もういっぺんしつかり、またやり変えようやないか。そしたら成功するかもわからんからしつかりやってくれ」と。決して叱らなかつたですよ。むしろ慰める方でしたな。

というのは、本人は、失敗したことを苦にしている

んですよ。それを叱つたら、よけいグシャツとなるんですよ。そのときは力をつけてやらないといかんですよ。“きみ、心配せんていい。それで会社はつぶれたりせん。だから心配せんていい。”という調子ですな。まあだいたいそういう調子ですな、ぼくは。

それじゃ社員を叱らんかというね、よく叱つたものですよ。“こんなことが分らんのか”と言うて叱つたりしますけどな。しかし大きな失敗をした場合には、むしろこつちがそれを引き受けてやらないといかんですよ」

③『働くことをじゃましない』
「人間というものは働きたいものですよ。“遊んどけ”と言われたら、そのときはいいけど、時間がたつと困ってくる。働くようにできているんやから、働くことをじゃましないこと、それが一番人の使い方がうまいんですよ。働こうと思

うとるのに、それをいやに

するようなことは、いちばん注意しないといかん。働かせ方が下手やと、どうも面白くない。きょう一日休んだろかと、こうなつてしまふ。だからみな思うように働かして、面白う働いてくれ、というふうにもつていかないといかんですね。それが人の使い方が上手ということになるんやないでしょう。か。ぼくも、部長なら部長が一所懸命に働いている。それをなるべくじゃましないように心がけてきたんです。それなら何も言わへんのかというと、やっぱり社長は社長として、言わんならんことはちゃんと言いましたけど。しかし、言うても、じゃまするような言い方はせえへんわけですよ。まあなんとなしに、“あの人に使われていると働きやすい”とか、“よく理解してくれる”とか、よく言われますな。それは結局、じゃましないということですよ。

④『働くことをじゃましない』
「人間というものは働きたいものですよ。“遊んどけ”と言われたら、そのときはいいけど、時間がたつと困ってくる。働くようにできているんやから、働くことをじゃましないこと、それが一番人の使い方がうまいんですよ。働こうと思

《松下幸之助発言集第18巻》
(つづく)